

House S
おらかな屋根裏空間をもつ住宅

海にほど近く、周辺はまばらに住宅が建ち始め、今後住宅が増えていくことが安易に想像される場所がこの住宅の敷地である。周辺の状況が今後変化していくことが予想できるため、風景や街並みを内部に取り込むような計画は難しいと感じ、できれば平屋で数値的な広さにはこだわらず身の丈にあった家に住みたいというクライアントの考えを抛り所に、内部空間を楽しめる必要最小限の大きさを有する住宅を計画することにした。

自由な条件の中で既成概念や構造の制約にとらわれず、これまで見たことのないような新しい形式の空間を有する建築を追求実現していくことも一つの方法論であると思うが、この計画では一般的な木造住宅の作り方を踏襲しながら、僅かでも新しい空間性を有する建築を実現できないかと考えた。

木造在来工法を採用し、柱・梁は一般的かつ合理的な1820グリッドに配置することに決め、4間×5間の面積の中にリビング・ダイニング・キッチン空間を中心に置きながら水回り個室をその周りに整然と落とし込んだごくシンプルな平面形とした。生活空間とは別に要求されたクライアントの仕事場でもある書斎は、玄関を介することで生活空間とは混ざり合わない離れ風の配置とし、必要とされる大きさだけを確保した。

断面形状はできるだけ高さをおさえながらも開放感のある形状にならないかと考え、小屋梁を居室最低天井高さである2.1mを確保できる高さにおさえ、通常は天井の中へ隠れてしまう束柱の並んだ屋根裏空間を室内に取り込むことにした。同時に各部屋の間仕切りを、可能な限り小屋梁の下端高さに合わせて、天井まで壁が立ち上がらないようにした。これらの操作により決して広くはない平面形の上部がつながり、束柱の並んだ大らかな屋根裏が一つの平面形に覆いかぶさったような室内空間が生まれた。

また梁と束柱が1820グリッドに配置されていることをより実感させるために、金属製の火打梁を採用し、書斎は平面計画同様、生活空間と差別化を計る意図で、天井高さを抑えつつ異なる屋根勾配としている。

屋根形状は部位毎に切妻（三角）屋根と片勾配屋根とした。北海道における三角屋根住宅の一般的な材料と作り方を踏襲し、板金葺き屋根を採用した。積雪の少ない地域ではあるが建物配置上落雪スペースが確保できないため、ガルバリウム鋼板立ちはぜ葺き横張り工法とし落雪防止に努めた。

外壁は道南杉下見板張りを採用し、将来的に外壁の色がシルバーグレーに変化し風合いが増すことを期待している。

一般的な作り方を踏襲しながら、僅かに考え直しこれらの操作を行ったことでおらかな屋根裏空間が生まれた。ただの屋根裏空間であることと同時に、屋根裏空間があることで新しい空間経験を有する住宅を提案することができたのではないかと感じている。

<データ>		<主な仕上げ>	
所在地	: 北海道苫小牧市	構造規模	: 木造在来工法・平屋建
用途	: 専用住宅	設計期間	: 2017.03~2017.07
敷地面積	: 224.82㎡	工事期間	: 2017.07~2017.11
建築面積	: 77.84㎡	設計	: ヨネタエミ建築スタジオ
延床面積	: 75.16㎡	施工	: 郷土建設株式会社
(小屋裏不算入)		写真撮影	: 佐々木育弥
		屋根	: ガルバリウム鋼板立ちはぜ葺き横張り
		外壁	: 道南杉下見板貼り
		床	: ナラ合板フローリング（床暖房対応） ビニル床タイル、構造用合板表し
		壁	: ビニルクロス #500
		天井	: ビニルクロス #500、構造用合板表し
		建具	: ラワン合板ウッドワックス

